

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	特別展示事業(自然)				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目	1	10	5	6	11	8	2,789
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要						
		事業期間	1	年度～	年度	関連計画 ・地域史研究事業 ・伊那谷自然史調査研究保管事業 条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・飯田下伊那広域圏の地域住民	圏域住民数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする	
			177000	177000			
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
目的の記述	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・特別展示の開催を通じて自然に対する関心を高め、新たな知識や視点に、地域住民が触れることができる。 ・調査研究活動の内容が地域住民に還元される。	特別展示の観覧者数(延べ人)	18目標	8000	最終目標		
			18実績	9350	19目標	10000	↑
		実施した特別展示の回数(回)	23目標	10000	23実績		最終目標達成年度
			18目標	2	最終目標		
			18実績	2	19目標	2	↑
		23目標	2	23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値	
	すぐれた資料や伊那谷の自然に関する内容をテーマとした特別展示を、調査・研究活動の成果に基づいて計画立案し、開催する。 同時に、特別展示に関連した展示解説会、講演会、シンポジウム、講座、観察会などをおこなう。	18年度の実績	< 展覧会 > ・新飯田市誕生記念企画展「遠山大地変と埋没林」(7/22～9/24) ・特別陳列「集める楽しみ、調べる魅力 美博の自然コレクション展」(11/18～2/21) < 付随事業 > ・ミニシンポ「埋没林が語る古代の自然災害」、自然講座「遠山大地変と埋没林」、展示解説 < 展示準備 > 「中央アルプスを歩く」展準備	展覧会に付随した講座などの回数(回) 展覧会に付随した講座などへの参加者数(人)	14回 724人
		19年度計画	< 展覧会 > ・企画展「中央アルプスを歩く」(7/21～9/30) ・特別陳列「骨は語る」(11/23～2/11) < 付随事業 > ・ミニシンポ「伊那谷・木曾谷の活断層と中央アルプス」、ワークショップ「骨から学ぶ・あそぶ」 < 展示準備 > 「ハナノキの自然史」展準備	展覧会に付随した講座などの回数(回) 展覧会に付随した講座などへの参加者数(人)	15回 800人

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	4,262	2,791
	事業費計(A)	4,262	2,791
人件費	正規職員所要時間	18年度 800	19年度 800
	臨時職員等所要時間	200	200
	人件費計(B)	3,076	3,076
	トータルコストA+B	7,338	5,867

特定財源内訳や補足事項
H20以降の上記事業費計は美術・人文・自然3分野の特別展示開催費を集計したもの。(H18・19年度事業費計は、自然分野のみ計上)

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値				
	・いつでも誰でもどこでも気軽に楽しむ ・自己表現の機会が得られる ・文化活動を主体的に担う	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(%)	現状値	64.8	19実績		
			20実績		21実績		
			22実績		23目標	50	
	文化活動に自ら主体的に関わっている市民の数(人)	現状値	7052	19実績			
		20実績		21実績			
22実績			23目標	8500			

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
当地住民による美術・人文・自然への関心の高まりから、平成元年に飯田市美術館が開館した。これ以来、内外の文化・芸術や自然に関する情報を紹介するために、特別展示の開催を継続している。	寄贈や調査・研究の継続により収蔵資料や情報が充実してきていることから、自主企画の展覧会が増加している。 絶滅危惧種などへの関心の高まりから、身近な自然への興味が増している。	自然や文化に関心を持つ市民にとっては、特別展示に対する期待が大きい。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 統合不可能 (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)？	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	地元研究者や、研究機関の研究者と共同調査を進めることにより、より魅力的で充実した展覧会を開催することができる。具体的には19年の「中央アルプスを歩く」展では、当館の研究協力者の研究成果を内容に盛り込む。また「ハナノキの自然史では」地元の保全調査団体や首都大学東京の研究者と一緒に現在調査を進めており、20年にその成果を展示する。広報宣伝には従来の方法のほか、より効果が高い方法の研究を当館全体で年度末までに進める。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	展覧会は資料の収集保管・調査研究活動の反映でもあるため、本館全体の活動内容に深く関わってくる。来年開館20年を迎えるのを契機に、市民・外部研究者・機関等の意見も聞きながら見直しを進める。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	